題目　高所得者ほど非倫理的行動をするのか？　―違法駐車に関するフィールド調査―

氏名　安中佳樹

指導教員　高橋伸幸

所得格差は人々に様々な悪影響を与えている。例えば、人々は、所得格差による精神的苦痛から、現実逃避行動を増加させるようになる。また、子供の発育や教育にも悪影響を与え、うつ病や統合失調症など心の病にも多くの人々が苦しめられている。このような悪影響が存在する中で、所得格差の新たな問題として富裕層の特権意識と非倫理性に着目したのが、カルフォルニア大学バークレー校の社会心理学者であるポール・ピフである。ポール・ピフらが最初に行った研究では、社会階層の低い人々は高い人々と比べ、向社会的な行動をする意識が高い傾向にあることが明らかになった（Piff, Kraus, Cote, Cheng, & Keltner, 2010）。そして、ポール・ピフらは次の研究で、上流階級の人々の非倫理的な行動について明らかにした。その内容とは、道路上において、高ステータスの自動車ほど割り込みをし、歩行者がいても道を譲らないなど、非倫理的な行動をする可能性が高いという結果が出たというものである（Piff, Stancato, Cote, Mendza-Denton, & Keltner, 2012）。しかし、高所得者の非倫理的な行動に関する先行研究は全て米国で行われたもので、日本でも高所得者が非倫理的な行動をする可能性が高いのかどうかは明らかになっていない。日本の所得格差は米国と比べると小さいが、近年拡大しているという現状がある。よって、本研究では、道路上での非倫理的な行動として「違法駐車」を新たに設定し、「日本においても、高ステータスの自動車ほど、道路上での非倫理的な行動（違法駐車）をする可能性が高いのか」という問いを検討した。研究方法としては、札幌駅周辺で違法駐車に関するフィールド調査を行い、違法駐車の台数を測定した。そして、流通している自動車の台数の比率を基準とし、調査で得られた違法駐車の台数の比率との比較を行った。その結果、違法駐車における高ステータスの自動車の割合は、流通量における割合よりも有意に高いことが示され、日本においても高所得者による非倫理的な行動が見られることが示唆された。本研究は、米国でしか記録が見られなかった高所得者による非倫理的な行動について、日本でも見られることを明らかにした点で意義があったと言えるだろう。